

教えてください、あななのこと。⑤

神奈川県川崎市 飯田和子さん（川崎・ごみを考える市民連絡会 代表）



つなげるつながる会員さん

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは、どんないきさつからですか？

A 戦争体験として、父が家族を伴って赴任した甲府市で6歳の時、1945年7月6日夜、空襲にあい、家と財一切は焼けました。終戦後は、日本全部が焼け野原からの出発でした。食糧をはじめあらゆる物資が不足し、生活そのものがとても大変だったのです。

今の大量生産・大量消費の風潮には、とても心が痛むのです。着るものを例に見ても若者は季節毎に買い換えるのですね。一枚のシャツを考えるとすれば、棉花の栽培、紡績工場、シャツ工場、海を渡って…、沢山の人の手を経て、店頭には並べられます。先進国の私たちが安価で簡単に手に入れることができるのは、なんだか申し訳ないような気持ちなのです。一枚のシャツから想像力を働かせて見なければなりません。

1992年5月「川崎・ごみを考える市民連絡会」設立のきっかけは、川崎市の「ごみ非常事態」宣言です。行政に働きかけ、市民も率先して行うことで協働の取り組みが進んだと思います。しかし社会の仕組みを作ることが一番大事です。よい仕組みができればみんなが知らない間にごみを減らすことができます。

近くの小学校で4年生に「ごみの授業」を10年以上させてもらっていました。絵本「もったいないばあさん」を読み聞かせから始めるのですが、子どもはうちに帰ってお母さんに「今日は学校にもったいないばあさんがきたよ！」と報告するらしいです。うふふ！

Q ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A 貴会が発足するきっかけとなったドイツ BUND のシュルツさんの講演会にごみ連の仲間と参加して感動しました。私は1994年に今泉みね子さんの案内でフライブルクの見学をしていますので、関心がありました。ですから発足以来の会員で、ごみと・SUNの愛読者です。今後も色々な役立つ情報と、市民活動をつなぐ役割に期待しています。

Q ごみ問題に関わる以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 私の活動のもう一つは、自然エネルギーの推進に関することで、うちでは京都会議を契機にして、屋根に太陽光発電を載せていますし、川崎市麻生区役所の太陽光発電施設設置以来10年間普及啓発活動、市民共同おひさま発電所づくり、など仲間たちと一緒に進めています。市の温暖化防止条例策定に加えていただく機会もありました。趣味といえば、小さな庭で花や木や野菜を育てることが好きです。生ごみと落ち葉で堆肥を作り天水尊で雨水利用、春や秋には庭でお茶や食事を楽しめます。ソーラークッカーも常時使ってお湯を沸かしたり、焼き芋を調理したり、楽しいです。孫たちと遊ぶとこちらが力をもらいます。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 「川崎ごみ連」はこの6月10日、20年の活動の幕を下ろすことに相成りました。ごみ問題のすべての課題が解決している訳ではないのですが、状況は大きく変化しているので、必要ならば必要と思う方がまた結成するでしょう。しかし生ごみリサイクルは残された大きな課題です。都市農業や地産地消、食育などの観点で広がりをもたせ「循環型まちづくり」を進めたいと考えているところですが…。